



学校法人志賀学園
久之浜こども園
令和6年4月30日

新緑の若葉がまぶしい季節になりました。

園庭には、さわやかな風の中、こいのぼりが悠々と大空を泳ぎ始めました。

入園式から三週間が経ちました。泣きながら登園していた新入園児も、個人差はありますが、徐々に園生活に慣れ始め、泣かずに登園できるようになってきました。勿論おうちが良くて、泣いて登園するお子様もまだ数名おりますが、少しの間、先生が抱っこをしてあげ、次に砂場の玩具を近くにおいたりしておくのと、泣きながらも玩具を持ち砂場で遊び始め、泣くのを忘れてしまうのです。時には、泣きながら先生とお散歩していたお子さんをビオトープに誘うと、メダカに気をとられ自然に泣き止みポンプの上げ下ろしまでしている姿が見られました。

こうして、日々、進級児も新入園児も落ち着いてきておりますのでご安心ください。今年の教育方針にもありますように、こどもたちの『好き』なこと、ものに出会えるよう、私たち保育者は子どもの興味関心がどこにあるのか、察知しながら環境を整えて参ります。そして、園が楽しいと思ってもらえるように努めて参ります。

さて、これから園だよりでは、園の様子をお知らせすると共に、日本に伝わる伝統や習わしを伝えて参ります。今月は「こどもの日」の由来についてです。

5月5日の「こどもの日」は1948年に『こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する日』として制定されました。もともとは「端午の節句」の日で、男の子の健やかな成長を願うお祝いの日でしたが、男の子だけでなく女の子の成長も一緒にお祝いする日となりました。ちなみに女の子は「桃の節句」といい、今でも3月3日におひな様を飾ったりしてお祝いをする慣習は残っています。こいのぼりは、鯉が滝を昇っていくように立派な人になってほしいという思い、又鎧兜は子どもの身を守られるようにという親の願いが込められ飾られるようになったということです。こどもの日には柏餅を食べますが、これは柏の葉が、新芽が伸びるまで古い葉が落ちないので縁起が良いということから柏の葉を使った餅を作ってお祝いする風習になったともいわれています。

一つひとつに意味があることを知り季節の行事を大切にしていきたいですね。